

Z Tab 用 取扱説明書 ソフトウェア編

目次

製品の登録方法

(本製品をご利用いただくには事前の「ユーザー登録」が必要です)

Z Tab 基本機能

ホーム画面について

- メイン機能
- J2534モードへの切替方法
- ZVCIペアリング設定
- アップデート

車両診断

- 車両診断について
- 診断機能
- OBD-II 診断
- サポート機能

その他の機能

- 開発ログ
- 保存データ
- イメージビューアー／レコードビューアー

付属資料

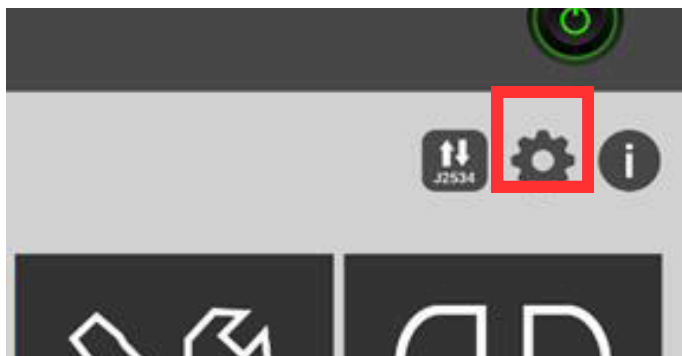
- 故障かな？と思ったら

製品の登録方法

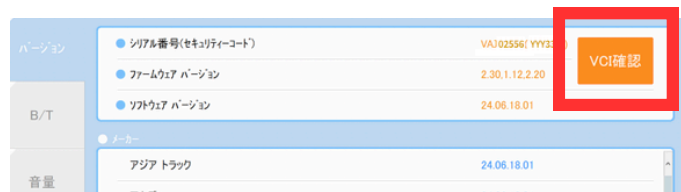
本製品をご利用いただくには事前の「ユーザー登録」が必要です

本機をインターネットに接続し、ZVCIを車両につなげた状態で行ってください。

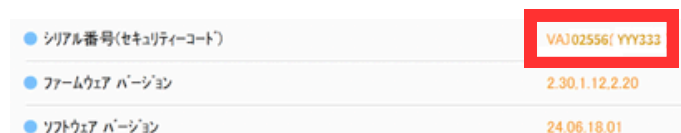
① ホーム画面から[本体設定]を選択



② 付属のZVCIを車両に接続後、[VCI確認]を選択し、セキュリティーコードを表示



③ シリアル番号、セキュリティーコードを控えます。
※セキュリティーコードはシリアル番号の後ろのカッコ内に記載されています。



④ ホーム画面から[車両診断]を選択



⑤ メーカー名を選択し、ポップアップが表示されたら、「製品登録」または「ユーザー登録」を選択し、ユーザー認証ページに移動します



既にG-SCANシリーズをお持ちの場合

▼ユーザー認証ページ



ユーザーID、パスワードを入力し、[ログイン]を押してください。

【製品の追加登録について】

ログイン後、すでにお持ちの製品情報が表示されます。
あらかじめ控えておいたシリアル番号、セキュリティーコードを入力し、[確認]を押します。
登録完了後、アップデートを実施いただくと使用可能になります。

製品の登録方法

新規登録の場合

① 以下の項目を入力します。

あらかじめ控えておいたもの

- ・シリアル番号
- ・セキュリティコード

新たに設定するもの

- ・ユーザーID (5~16文字以下)
- ・パスワード (8~16文字以下)
- ・メールアドレス

② 仮登録が完了すると、登録したメールアドレス宛に本登録用のURLが送られます。

③ 必要事項を入力し[確認]を押します。登録内容に誤りがないことを確認し、チェックを入れて[登録]を押します。

本ソフトウェアは、日本国内でのみ使用が許可されています。日本国外で使用する場合は、本製品の使用制限など不利益を受ける可能性があります。本ソフトウェアのご使用を開始される前に、以下の契約書をよくお読みください。本契約の条項のすべてに同意いただけない場合、お客様は本ソフトウェアをご使用になることはできません。株式会社インターサポート（以下、「弊社」といいます）は、弊社の完全な自由裁量により、お客様への事前の通知なしに本ソフトウェアに適用される使用許諾契約書の条項または条件をいつでも追加、変更、または削除できるものとします。かかる条項または条件は、その追加、変更、削除が本契約書に掲載されたと同時に適用されるものとします。お客様は、掲載後に本製品または本ソフトウェアを継続して使用することにより、当該の追加、変更、削除を

上記内容を全てご確認のうえ同意する

登録

戻る

セーフティーケアをご購入いただいた場合、動産総合保険の規約が表示されます。内容をご確認の上「規約に同意する」にチェックを入れてください。

※スタンダードプランには必ず付いてきます。

④ 登録完了後、ホーム画面からアップデートを実施いただくと製品が使用可能となります。



メイン機能について

ホーム画面

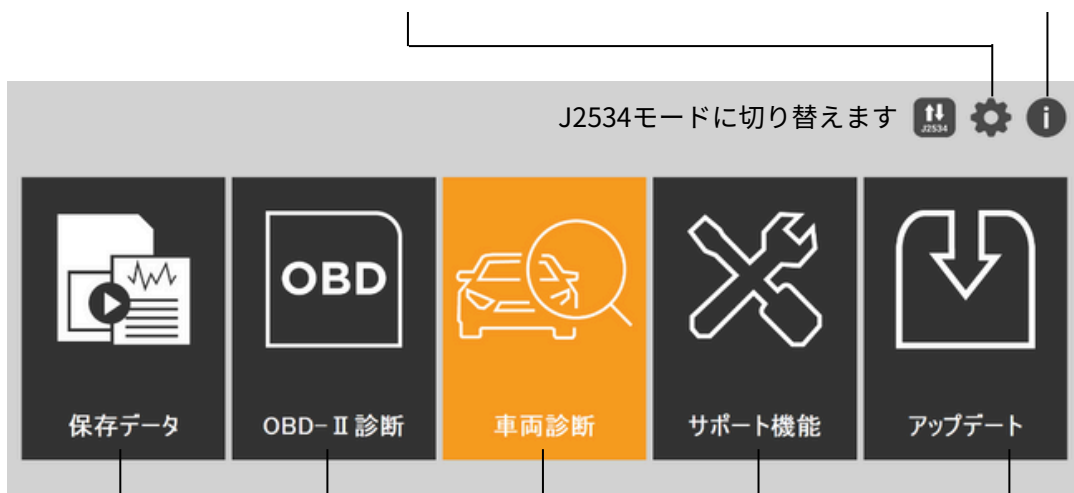


バッテリー状態 Wi-Fi接続状態 B/T接続状態 診断ソフト終了ボタン



ソフトウェアのバージョン情報の確認、
ユーザー設定の表示、変更をします。

かんたん操作ガイド・整備
技術情報を閲覧します。



保存データ画面
にすすみます

OBD-II診断を
開始します

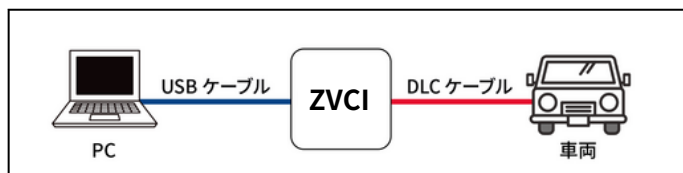
車両診断を
開始します

サポート機能選択
画面にすすみます

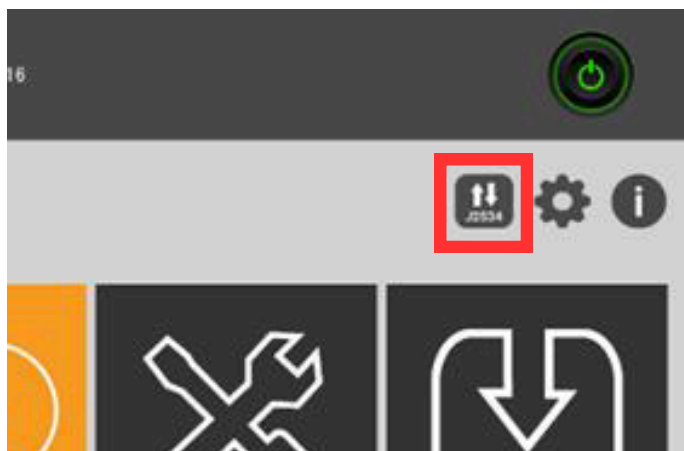
アップデート手順
にすすみます

〈J2534モードへの切り替え方法〉

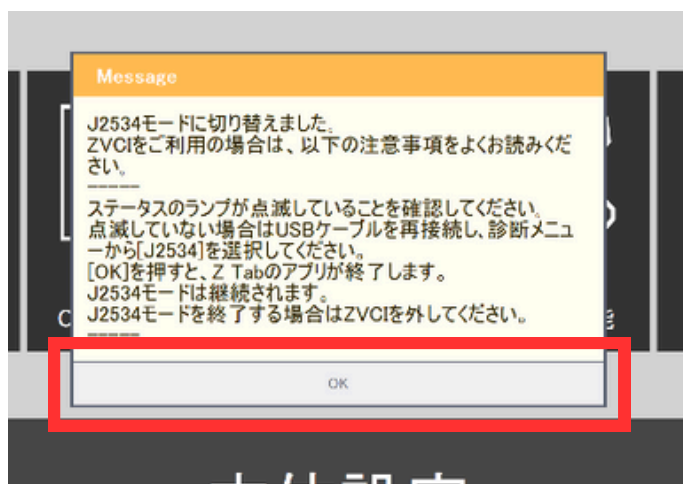
1) ZVCIとPCをUSBで接続し、車両とZVCIを接続。



2) ホーム画面から[J2534]を選択します。



3) ポップアップが表示されたら「OK」ボタンを選択。ZVCIの[ステータス]ランプが点滅することを確認してください



4) J2534モードを終了際は、車両からZVCIを取り外してください。

〈本体設定〉

歯車アイコンからバージョンの確認や設定の変更をすることができます。



① バージョン

シリアル番号および診断ソフトのバージョンなどの確認ができます。



② 音量

内蔵スピーカーのボリューム設定ができます



③ ユーザー情報

本体に所有者を登録することができます。



④ 単位

データ表示に使用する測定単位の設定ができます。



⑤ B/T

ZVCIとの接続状況が確認できます。



〈ZVCIのペアリング設定〉

1) 画面左側の[B/T]を選択します。



2) 車両に接続し、ZVCIに電源を供給すると、[使用できるVCI]に接続可能なZVCIが表示されますので、『ペアリング』を選択します。

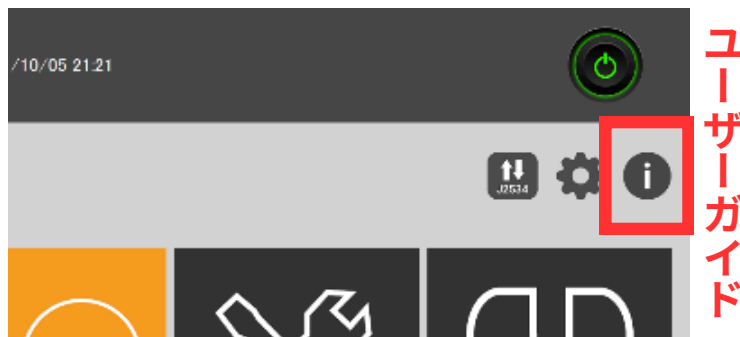


3) ペアリングが完了すると[使用中のZVCI]に接続済みのZVCIが表示されます。



〈ユーザーガイド〉

(i) のアイコンから「かんたん操作ガイド」や各メーカーの整備技術情報を閲覧することができます。



① かんたん操作ガイド

操作方法や機能を抜粋して記載したものです。



② 整備技術情報

各メーカーの作業手順を閲覧できます。



〈アップデート〉

インターネットを利用して、アップデートサーバーから利用可能な更新ファイルをダウンロードします。

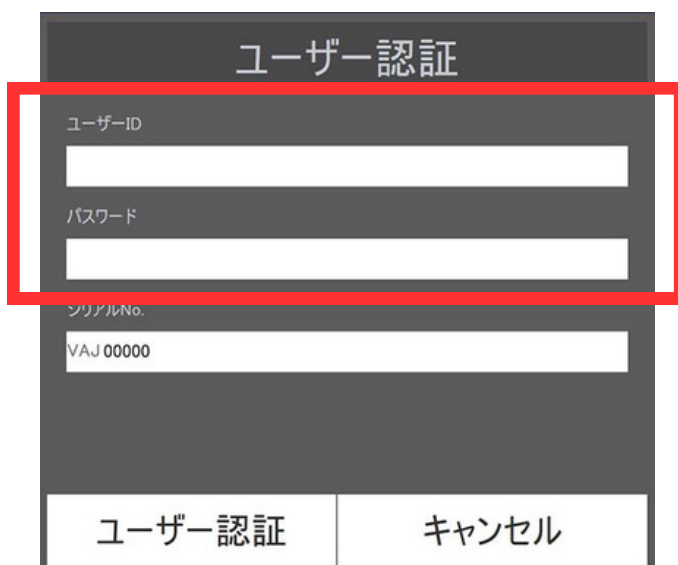
アップデートには国産乗用車、トラック・バス、輸入乗用車のいずれかが有効期限内である必要があります。

1) ホーム画面の [アップデート] を選択します。



2) ユーザー認証をしてください

ユーザーID、パスワードを入力してユーザー認証をしてください。



3) アップデートを選択

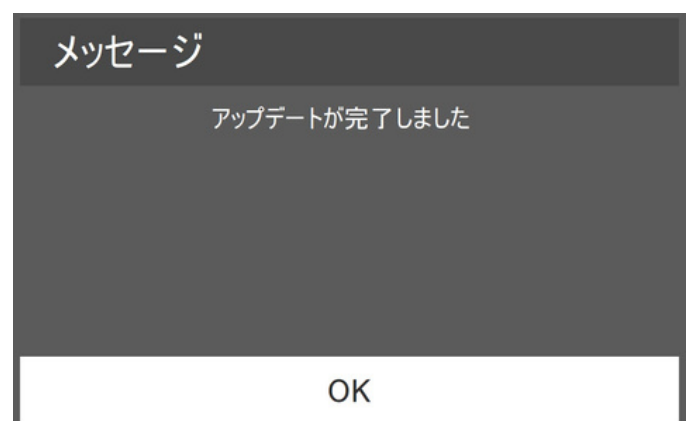


ソフトウェアのメーカー、現在のバージョン、最新のバージョン、ダウンロードに必要な容量が表示されます。

4) アップデートが開始します



5) OKボタンを押すと診断ソフトが起動します



〈車両診断について〉

[車両診断]を選択すると、自己診断、データ表示、アクティブテスト、作業サポートなどの機能を実施できます。



メーカー選択

[車両診断]を選択すると、対応している自動車メーカーが一覧表示されます。通信した履歴順にメーカーが表示されます。



二次元コードの読み取り

※Z Tab MSのみの機能となります

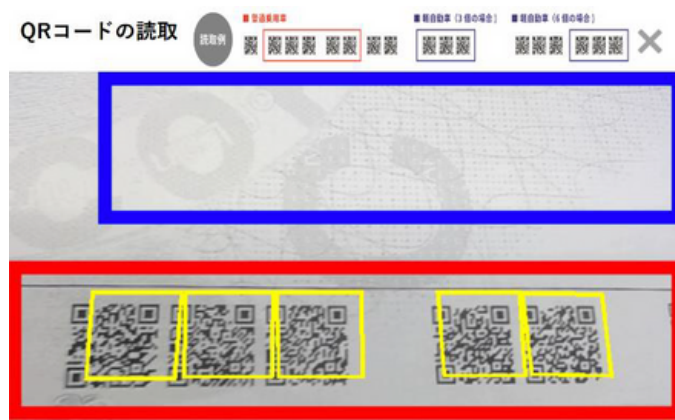
自動車検査証（車検証）の右下に記載されたQRを読み取り車種選択を自動で行う機能です。

1. [二次元コードの読み取り]を選択



2. QR読み取り用のアプリ起動

車検証右下部の[二次元コード]を接写すると黄色枠が表示されますので、合わせてください。



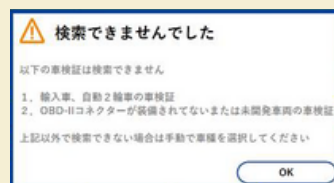
青枠：軽自動車 赤枠：普通乗用車
※輸入車、自動二輪車などは対応していません。

3. 車両情報が表示されます。

※過給機の有無により複数表示される場合があります



車種情報が読み取れない場合には、エラーメッセージが表示されます。



〈システムサーチ〉

[システムサーチ]を選択すると、車載システムと通信し一覧表示します。

※診断ソフトで未対応の場合、表示されません

システム名	コード数
TOCS	0
HV	0
クルーズコントロール	0
ABS, VSC	0
電動パワーステアリング	0
P制御	0
SRSエアバッグ	0
マフラー	0
ハワマネットユニット1	0
ハワマネットユニット2	0

オールダイアグ機能

システムサーチ実行中に車載コンピューター(以下、ECU)から読込んだ故障コードの数をシステムごとに表示します。

〈診断機能〉

診断機能は大きく分けて、自己診断、データ表示、保存データ表示、アクティブテスト、作業サポート、識別情報表示の6項目で構成されています。



1. 自己診断

故障コードの読み込みおよび消去

ECUに記憶されている故障コードの読み込みおよび消去を実行するのに使います。故障コード、故障系統名、状態などが確認できます。



故障コード：SAEコード（例：P0135）、またはメーカー独自の故障コードを表示します

故障コード系統名：故障系統名を表示します

状態：故障コードを検出している状態を表示します

現在：リアルタイムで検出している故障コード

未確定：2トリップ連続故障検出法を使用する故障コードで、1トリップ検出状態

○t：検出された故障に対して何トリップ経過したかを表す（例：1トリップ目だと1t）

「過去」「記憶」：過去に検出した故障コード

※各メーカー毎の独自機能が備わっている場合があります（例: 日産「CAN診断サポートモニター」など）。

※システムにより一部対応していない機能があります（例: SRSエアバッグ：アクティブテストが一部非対応）

フリーズフレーム

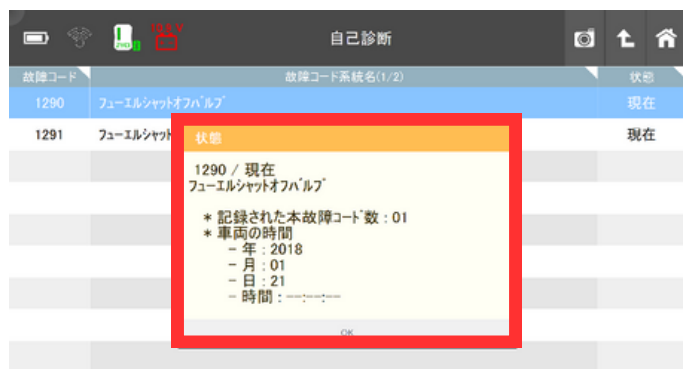
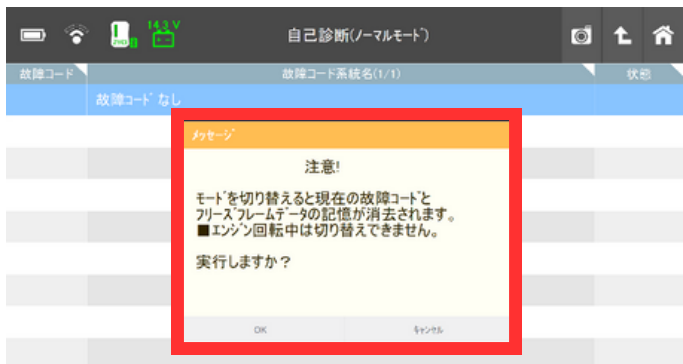
フリーズフレームデータとは、ECUが故障コードを検出した際の、センサーの値を記録したデータです。

フリーズフレームデータを選択するとフリーズフレームデータが表示されます。ハイブリッドシステムの場合、フリーズフレームデータから詳細コードが確認できます。



メーカー独自の自己診断機能

一部のメーカーでは独自の自己診断機能があります。(例: トヨタにはノーマルモード、チェックモード(ダイアグ検出の感度を高くする)の2つの自己診断機能があります。他にも故障コードの詳細情報を表示する機能などがあります)



2.データ表示

メーカーによってデータ表示、データリスト、データモニター、パラメーターとも呼ばれ、ECUの入力/出力値データを示す診断機能です。[データ表示]を選択すると、下図のようにデータの一覧がリアルタイムに表示されます。



1画面詳細 / 2画面表示

[1画面詳細]を選択すると、最大10項目のデータが一覧表示され、長い項目名にも対応できる1画面モードに切り替わります。[2画面表示]を選択すると画面を二分割し最大20項目のデータを表示する2画面表示に切替わります。



機能

最小値 / 最大値を表示、非表示、リセット、またTC端子をON/OFF切替するには、[機能]を選択してください。TC端子とは、故障コードを確認するときに短絡させる端子です。



参考値

[参考値]を選択すると、車両の参考値を表示します。



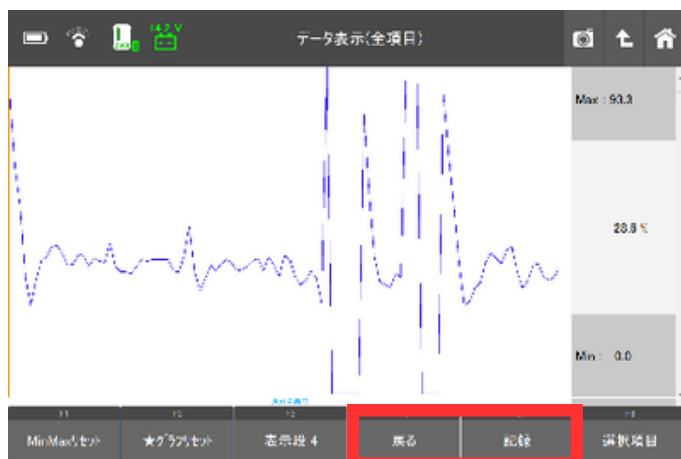
グラフモード

データの表示方法がグラフ表示モードに切替わります。



表示段

画面に表示されるグラフの数を切替えます。ボタンを選択するごとに表示が切替わります。



戻る

グラフモードを終了してキストモードに戻ります

記録

データの記録・保存を行います。[単一記録]もしくは[連続記録]を選択してください

単一記録

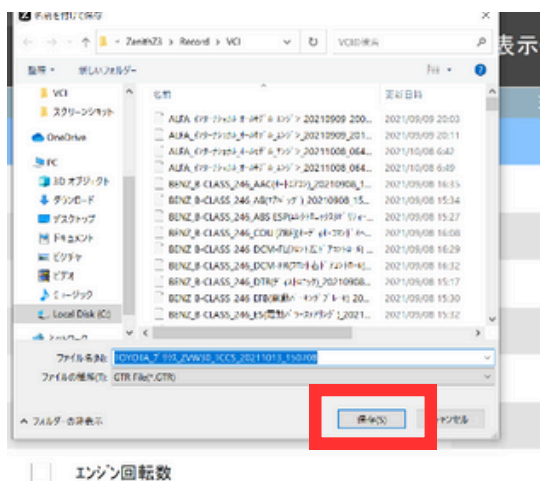
1サンプル分のデータを記録します

連続記録

連続したサンプルのデータを記録します（最大60分）



連続記録を終了するには[記録終了]を選択し、[保存(S)]を選択してデータを保存してください。



選択項目

1画面詳細モードに切り替え、データ一覧から項目名の左にチェックを入れ、表示したい項目を選択します。右下にある[選択項目]を選択すると、選択した項目のみが表示されます。項目数を減らすことにより表示速度が上がります。



全項目

全項目モードに戻るには[全項目]を選択してください。



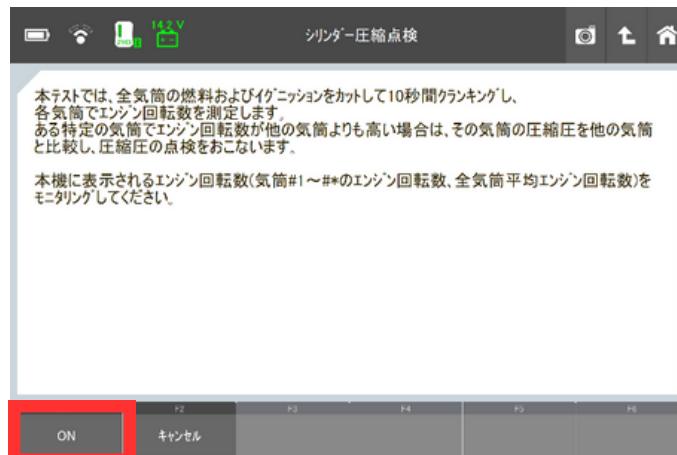
3.保存データ表示

保存されたスクリーンキャプチャー、保存データを表示することができます。詳しくは[2.2保存データ]を参照してください。



4. アクティブテスト

本機からECUを介してインジェクター、ファン、ソレノイドバルブなどアクチュエーターに信号を送り作動させる機能で、それらの部品および関連回路の動作を点検します。



対応する作業サポートについて

作業サポートはメーカーであらかじめ設定されており、メーカー、型式によって対応作業が異なります。

5. 作業サポート

コーディング、リセット、補正、初期化、アダプテーション、プログラミングなどのサービスやメンテナンスに必要な機能です。診断機能メニューから[作業サポート]を選択すると、その車両に対応する作業サポートが表示されます。



一覧の中から実行したい作業サポートを選択し、画面に表示される説明をよく読み、[OK]を押すと実行します。機能を中断するには[キャンセル]を押してください。



6. 識別情報表示

ECUパーツ番号およびECUの識別情報を取得します。取得できる情報は、メーカーや車両モデルによって異なります。



〈OBD- II 診断〉

ISO9141-2、ISO14230-4<KWP2000>、SAE J1850 VPW、SAE J1850 PWM、ISO15765-4(CAN)規格に準拠するOBD-II / E-OBD / J-OBD-II診断ができます。

オンボード診断は自動車の排出ガス制御システムの誤動作や故障を点検するための機能です。

ISOとSAEの工業規格に対応する車種の故障コード情報やデータをメーカーに関係なく取得することができます。

OBD- II 故障コード

SAEおよびISO工業規格文書では、OBD-II、E-OBDおよびJ-OBD-IIコードは英数字の識別子で始まる3桁の数字から構成されます。識別子は、[P0～P3]、[B0～B3]、[C0～C3]、[U0～U3]で、それぞれパワートレイン、ボディ、シャーシ、ネットワーク通信システムに対応しています。

コード	システム (含まれるシステム例)
P0*** ~ P3***	パワートレイン エンジン、トランスミッション
C0*** ~ C3***	シャーシ ABS、サスペンション、 トラクションコントロール
B0*** ~ B3***	ボディ エアバッグ、エアコン、 ヘッドライト
U0*** ~ U3***	ネットワーク CAN、内部システム通信

メーカー固有の故障コード

メーカーに関係なくOBD-II診断で表示される故障コードは、[標準コード]または[共通コード]と呼ばれます。

各メーカーで独自に割当てられているコードは、[メーカーコード]または[非標準コード]と呼ばれます。

[OBD-II / E-OBD / J-OBD-II]機能でメーカーコード(もしくは非標準コード)が検知された場合は、各メーカーで異なる定義づけがされているため、本体では[故障コード不明]と表示されます。その場合、ホーム画面の[車両診断]から車両メーカー、車種、型式、エンジン型式、年式、システムを選択し、診断を行ってください。

ZVCIを車両と接続し、[OBD-II診断]を選択



レディネスコード(履歴情報)

故障診断が正常に作動しているかを識別するための診断履歴を表示します。レディネスコードにより排気ガス発散防止装置関連の作動状態が確認でき、適正に故障診断が行なわれているか確認できます。

項目名(1/26)	MID	現在値	単位
EDCに記憶されているパワートレインOTC数	E8	0	-
<input type="checkbox"/> 排気ガス関連パワートレインOTC数及びMIDの点灯状態	E8	OFF	-
<input type="checkbox"/> ミスファイアモニタ	E8	テスト完了	-
<input type="checkbox"/> 燃料系モニタ	E8	テスト完了	-
<input type="checkbox"/> 一般構成モニタ	E8	テスト完了	-
<input type="checkbox"/> キャタライザモニタ	E8	テスト未完了	-
<input type="checkbox"/> ヒータ付キャタライザモニタ	E8	非対応	-
<input type="checkbox"/> 蒸発ガス防止装置モニタ	E8	非対応	-
<input type="checkbox"/> 2次空気導入装置モニタ	E8	非対応	-
<input type="checkbox"/> 空調制御装置冷媒モニタ	E8	非対応	-

※ MIDとは車両のコンピューターのIDです。エンジン、トランスミッション一体型のコンピューターの場合など、MIDが2つ以上表示される場合があります。

OBD-II / E-OBD / J-OBD-II データ表示

メニューから[02.データ表示]を選択すると、センサーやアクチュエーターのデータを表示します。



〈サポート機能〉

サポート機能とは、車両整備の際によく使われる機能にすぐアクセスできることで、作業の効率化を図れる機能です。



ADASを選択した例



1) 該当するメーカーを選択してください。

※サポート機能に対応しているメーカーが表示されます
 ※ここでは例として「トヨタ」を選択します



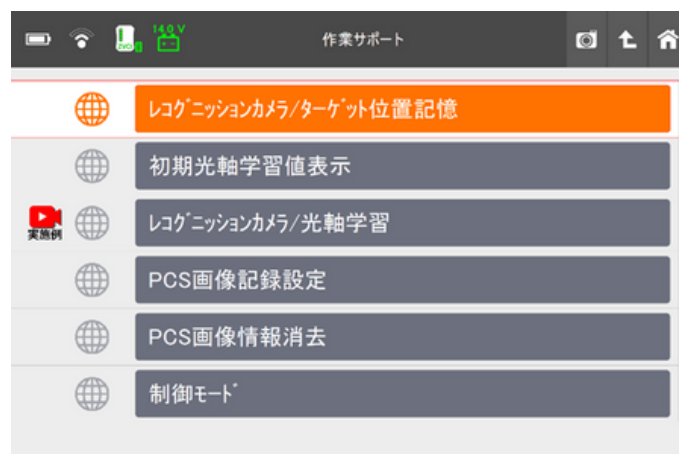
2) 該当するシステムが表示されます

メーカーによって画面遷移が異なります。ここでは「シャシー」を選択し、「前方認識カメラ(セーフティセンスP)」を選択します

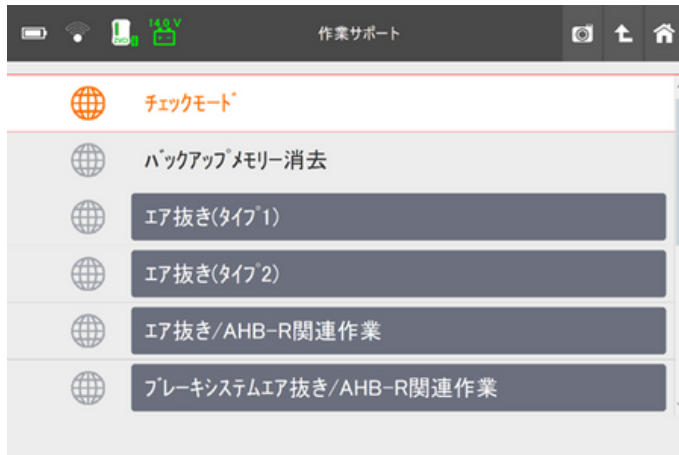


3) 関連する作業サポート名が表示されます

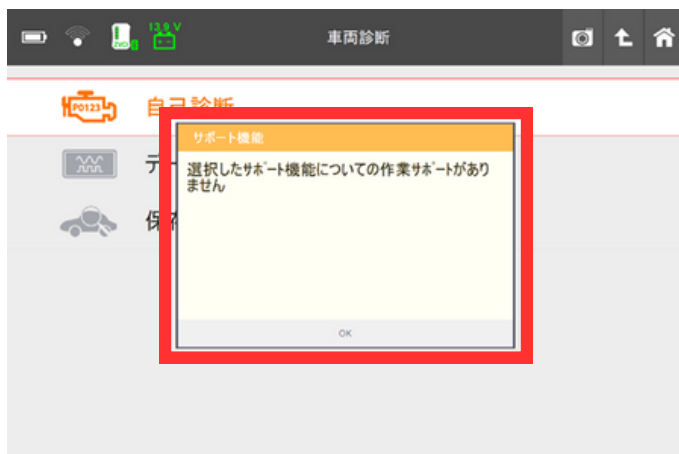
すべての作業サポート項目が該当するので、背景色が灰色で表示されています



「ブレーキエア抜き」を選択し、「トヨタ」から「ABS_VSC」を選択した例



サポート機能に関連する作業サポートがない場合、このように表示されます



〈開発ログ〉

車両との通信ができないなどの不具合情報を記録し、送信いただく機能です。



①開発ログの開始

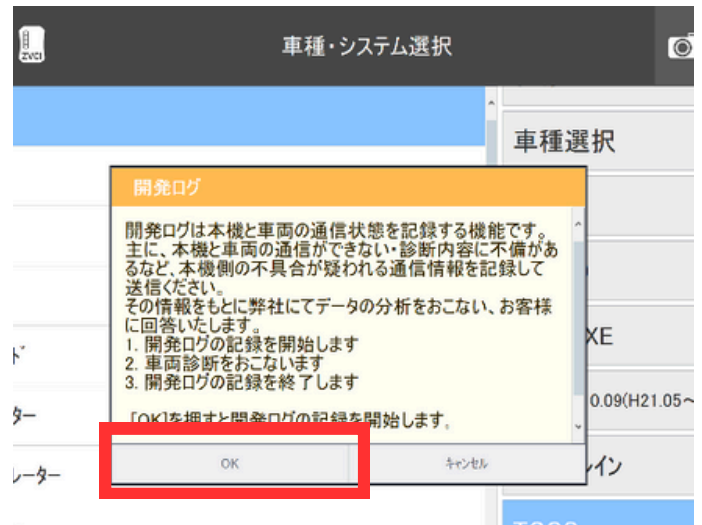
1) 車種・システム選択画面で [開発ログ] を選択



2) [開発ログ 記録開始] を選択



3) 確認画面が表示されますので、[OK]を選択



4) 画面左上にアイコンが表示され、記録が開始されます



5) 記録したいシステムとの通信を実行



②開発ログの終了

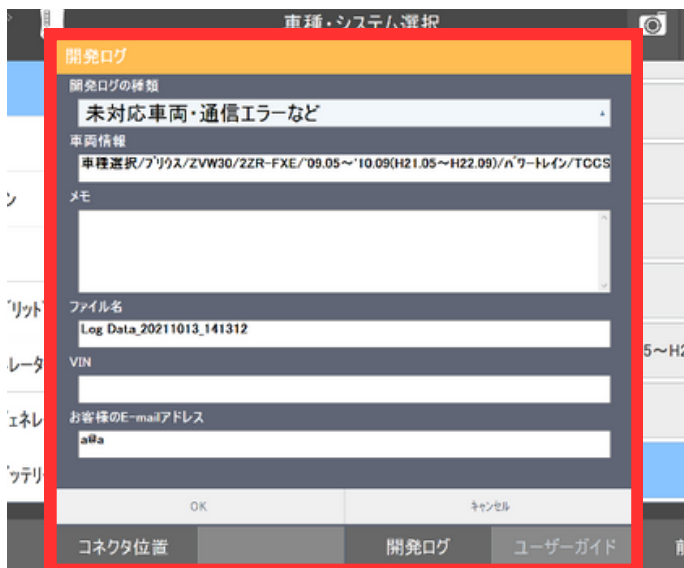
1) 車種・システム選択画面まで戻り、[開発ログ]を選択



2) [開発ログ 記録終了]を選択



3) データを保存します。開発ログの種類を選択し、メモ、ファイル名、E-mailアドレスを入力して[OK]を選択すると終了します。



4) 開発ログの記録が完了し、画面左上のアイコンが消えます。



③開発ログの送信

1) 車種・システム選択画面の[開発ログ]を選択します。

※開発ログの送信にはインターネット接続が必要になります



2) [開発ログ一覧]を選択

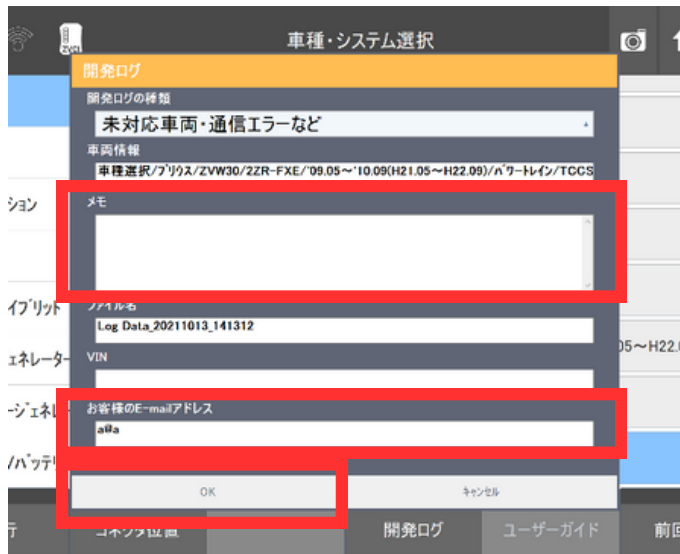


3) 送信したいデータの□部分にチェックマークを付け、[送信]を選択します。

※「記録日」欄に開発ログの送信日、「状態」欄にデータのステータス(保存済み/送信済み)が表示されます。



- 4) メモとお客様のE-mailアドレスを入力してください。
 [OK]を選択すると送信が開始されます。
 ※空欄があると[OK]を選択することができません。



- 5) 「状態」が「送信済み」になったことを確認してください。
 ※弊社にて開発ログの確認ができ次第、ご入力いただいたE-mailアドレスに返信いたします。

開発ログ一覧		記録日	状態
	追加	-	保存済み
	追加	-	保存済み
	追加	-	保存済み
	追加	-	保存済み
em search.txt	追加	10-13-2021	送信済み
search.txt	追加	-	保存済み
	追加	-	保存済み
	追加	-	保存済み

※E-mailアドレスに誤りがあると、回答ができません

〈保存データ〉

[保存データ]を選択するとスクリーンキャプチャー、保存データを表示・印刷することができます。

※印刷する場合、事前にWindowsの設定で「プリンターの設定」を行う必要があります。



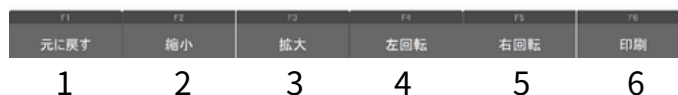
[保存データ]を選択すると、保存されているファイルの一覧が表示されます。記録されたデータファイルの種類は、画面の右側に表示されます。

- PNG: スクリーンキャプチャーで保存した画像
- GTR: データ表示機能で保存したレコードファイル



イメージビューアー (PNG)

[PNG]ファイルを選択し、[表示]を選択すると、画像が表示されます。



説明

1. サイズ変更または回転したファイルを元に戻します
2. 表示したファイルのサイズを縮小
3. 表示したファイルのサイズを拡大
4. 表示したファイルを左回転
5. 表示したファイルを右回転
6. 表示したファイルを印刷

※PNG (画像ファイル) のみ印刷可能です

注意: 印刷を行うには、使用したいプリンターのドライバーをインストールする必要があります。

レコードビューアー（GTR）

[GTR]ファイルを選択し、[表示]を選択すると、データ表示機能で保存したデータをテキストモードで表示します。画面右下の[グラフ]を押すとグラフモードで表示します。

① テキストモード



1 2 3

説明

1. 記録データを巻き戻し
2. 記録データを早送りします
3. グラフモードに切り替えます

② グラフモード



1 2 3 4 5 6

説明

1. 記録データの巻き戻し/停止
2. 記録データの早送り/停止
3. グラフサイズの変更(1px -> 5px -> 15px)
4. 表示されるグラフ数の変更
5. リスト表示への切り替え

故障かな？と思ったら

Z Tabのトラブル症状、および主なエラーメッセージの対処方法について記載します。

症状／エラーメッセージ	原因と処置要領
電源が入らない	本体に内蔵されているバッテリーの電池残量が少なくなっている可能性があります。付属のACアダプターに接続して充電をおこなってください。
画面が表示されない	<ul style="list-style-type: none">電源が切れている、又はスリープモードになっている可能性があります。電源ボタンを押してください。本体に内蔵されているバッテリーの電池残量レベルが少ない可能性があります。バッテリーの充電を行ってください。
インターネットに接続できない	Wi-Fi <ul style="list-style-type: none">ルーターとの距離が離れすぎている可能性があります。近くで再度お試しください。ルーターの電源がオフになっていないかご確認ください。機内モードになっている可能性があります。タスクバーから機内モードがオンになっていないかご確認ください。Wi-Fiに接続する際のネットワーク名（SSID）、セキュリティキーに誤りがないかご確認ください。
タッチパネルが正常に動作しない	本体の画面に汚れ、ゴミなどが付着していないか確認してください。汚れやゴミが付着していると誤作動の原因になりますので、電源を切ってから柔らかい布でよく拭取ってから使用してください。
操作ができない	電源を切った後、再度電源を入れて動作を確認してください。
ZVCIと接続できない	<ul style="list-style-type: none">Windowsの設定でB/Tがオンになっているか確認してください。本体設定の画面よりZVCIとペアリングされているか確認してください。ペアリング済みの場合、一度ペアリングを解除し再接続を実行してください。ペアリング方法の詳細内容については「B/Tペアリング設定」をご参照ください。
通信異常と表示される	<ul style="list-style-type: none">ZVCIと車両の接続を確認してください。イグニッションキーがONの状態になっているか確認してください。バッテリーの電圧を確認してください。通信しようとしている車両・システムがZ Tabの対応車種・システムに含まれているか確認してください。選択したシステムが車両に搭載されているか確認してください。診断する車両が正しく選択されているか確認してください。

その他の症状、エラーメッセージについてのお問い合わせは、ZVCIに記載されているシリアルナンバーをご確認の上、製品保守センターまでご連絡ください。

株式会社インターサポート

製品保守センター

Tel 050-3802-4235

受付時間 10:00～17:00(月～金)

<https://g-scan.jp/after-support/maintenance>

「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

本書を株式会社インターサポートの許可無く複写、複製、転載する事を禁じます。
本書に記載の製品、製品仕様、および使用方法は改良のために、将来予告なしに変更される場合があります。